

| |
|---|
| <p>21：単一合成培地を使用した個別培養法を用いた体外胚生産によるウシ卵胞内環境と卵母細胞の形態が及ぼす胚発生能への影響の解明</p> |
| <p>畜産科学科 食料生産科学講座 福井 豊</p> |
| <p>メールアドレス fukui@obihiro.ac.jp</p> |
| <p>研究の概要</p> <p>【目的】 ウシ卵巣内には、種々の発育・退行過程の卵胞が存在しており、卵胞内にある未成熟卵子(卵母細胞)の成熟および胚発生能は異なると思われる。本研究では、個々の卵胞内未成熟卵子の胚発生能を判定するために、単一合成培地を用いた個別培養法を確立し、得られた胚(胚盤胞)の受胎性を検討した。</p> <p>【方法】 と畜場より採取したウシ卵巣内に存在する個々の卵胞(直径3-8mm)から未成熟卵子を採取し、その形態(卵丘細胞の付着状態、卵細胞質の均一性)から個々の卵子を化学的に組成が明らかな合成培地(SOF + 0.1% PVA)で体外成熟、体外受精、および体外培養を行ない胚盤胞へ発育した胚の受胎性を知るために移植に供試した。移植には、Prostagalandin F2 で発情調整した5頭のレセピアント牛を用いた。</p> <p>【結果】 移植された5頭のレセピアント牛はその後発情を回帰し、受胎は確認されなかった。しかし、その後本研究で作出した胚盤胞をガラス化保存・加温後に体外培養を行なったところ、60%以上が発育したことから、受胎牛が得られる可能性が示された。</p> |